

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 つくば市立東小学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年 92人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 (パラリンピアン講演会) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	児童が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を育成し、人と関わる力やつながる力を醸成する。
5 取組内容	○ 第6学年における「パラリンピアン講演会」の実施 ・実施日時 令和2年10月13日(火) 10:00~11:30 ・実施場所 本校体育館 ・講師 小池 岳太 氏 JTB コミュニケーションデザイン パラアルペンスキー/パラサイクリング競技 ・演題 「自分の可能性を信じて」 ・講演内容 (1) 可能性をあきらめなかった自分 (2) 可能性をあきらめなかったことで周囲が協力的になる (3) 可能性をあきらめなかったパラアスリートたち  【事前指導】 ・6年生各学級において、講師の紹介、講演の内容、パラリンピックについての概略等を知る学級活動の時間を実施した。 ・講師の方やパラリンピックについて、興味関心を高めた。 【講演会当日】 1 会場設定 ・展示物等、講師の方が持参してきたものを体育館に設置し、場の設定を行った。



パラアルペンスキーの用具

## 2 講師入場

- ・事前に講師と打ち合わせを行い、入場曲が流れる中、講師が競技用自転車に乗って登場した。



講師登場の様子

## 3 講演

### (1) 自己紹介



プレゼン資料を基に、自己紹介や取り組んでいる競技の解説を進める

### (2) 障がい体験（片手での生活についてクイズ形式で実施）



片手ネクタイ結びの挑戦



反応の速さを確認するゲーム

- ・クイズの内容をもとに、片手でゲームやネクタイを結ぶ方法を実演。
- ・担当教師もネクタイ結びに挑戦した。

(3) ストレッチ体操、スキー板担ぎ



閉眼片足立ちに挑戦

- ・肩甲骨ほぐしや腹式呼吸、閉眼片足立ちによる体力年齢テストなどを実施した。
- ・片手で競技用スキー板を担ぐ実演と代表児童の体験を行った。

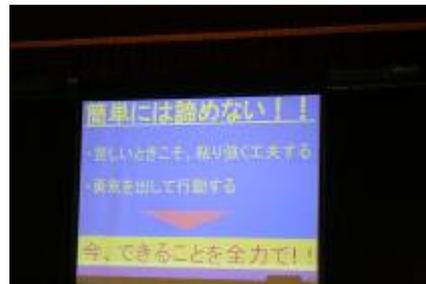
(4) 映像によるパラリンピック競技の紹介

- ・講師自身の競技の様子
- ・2014 ソチパラリンピック、2018 平昌パラリンピックの様子

(5) 伝えたい事(まとめの話)



「失ったものを数えるな 残されたものを最大限に生かせ」



「簡単には諦めない!!」

4 閉会行事



児童代表の感想・感謝の言葉



講師の先生の見送り

- ・児童代表がこの時間の感想とともに、感謝の言葉を伝えた。
- ・児童が教室に戻る際、講師自ら出口に立ち、児童に挨拶や言葉を伝えた。

【事後指導】

- 1 各学級で、講演会の内容を受けて話し合いを実施し、考えや思いの共有化を図った。
  - ・本講演会の題目であった「自分の可能性を信じて」について
  - ・パラリンピックへの認識の変化、期待について
- 2 講師の活動等が掲載されている書籍を各学級に置き、自由に閲覧できるようにすることで、本講演会後も、パラリンピックについて興味・関心が継続できるようにした。

6 主な成果	<p>○事後指導における聞き取り調査の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のパラリンピックへの興味・関心が高まり、パラリンピック競技の内容や制度等についての理解が深まった。</li> <li>・2021年に実施予定であるオリンピックだけでなく、パラリンピックの開催を楽しみにする児童が増えた。</li> <li>・健常者が感じえない、身体に障害をもつ人々の努力や大変さを知り、どう接したらよいか理解することができていた。</li> <li>・可能性や夢など、自分の将来に希望をもち、努力していくことの大切さを感じていた。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、近隣に公的機関の研究施設等が多く、保護者には研究者などの関係者が多い。家庭の教育力が高く、近隣施設等への見学なども、幼少のころから行っている児童が他の地域より多くみられる。</li> <li>・専門性の高い外部講師による講演を行っても、興味をもって拝聴したり、質問したりすることができるので、最前線で活躍するアスリートの話についても、高い興味・関心を示し、共感や理解を得ることができる。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックや障害をもつ人への理解について予備知識を持って話を聴くことで、より効果が上がると考えられる。そこで、事前指導・学習において、講師の紹介や関わるスポーツ等について、時間を取って実施するとより効果的であると考えます。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響で、感染防止のため6年生のみでの実施となった。機会があれば、他の学年でも講演会等を実施し、パラリンピックや障がい者スポーツへの理解を深め、スポーツを通じた共生社会の構築ができる素養を身に付けさせたいと考える。</li> <li>・第3学年国語科の学習でパラリンピックを題材とした単元があり、総合的な学習の時間等を活用し、今年度購入した資料などを基に教科横断的な学習へ発展させていく。</li> </ul>